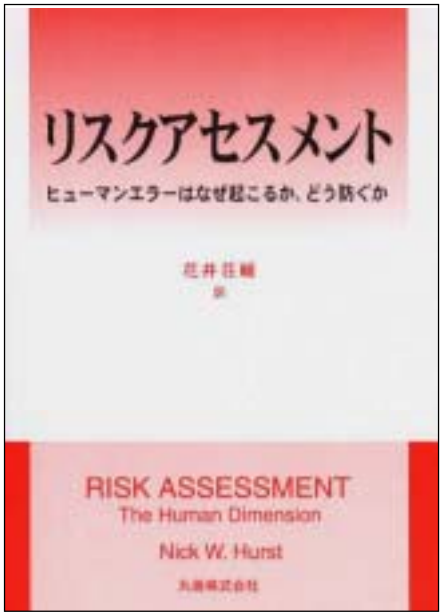
「リスクアセスメント　－ヒューマンエラーはなぜ起こるか、どう防ぐか－」

Nick W.Hurst 著、花井荘輔　訳、丸善株式会社

ISBN 4－621－04786－8（定価 2,500 円＋税）　平成 12 年 9 月 20 日発行



〔目　次〕

著者の覚え書き
はじめに
訳者まえがき
用語集
この本の全体構成
第１章　事故の因果関係に関するいろいろな見方
　　－事故のケーススタディー
第２章　事故の因果関係のモデルと論的的アプローチ
第３章　リスクの評価　－数値による定量的な表現－
第４章　リスクと意思決定
索引

職場の安全衛生水準向上のための手法として、リスクアセスメントに対する関心が高まってきている。労働省が公表した先の通達は危険有害要因の特定について、リスクアセスメントの手法を推奨している。これらを受けて、リスクアセスメントに関する参考書や手引書が目につくようになってきた。しかし、これらの参考書（手引書）は、リスクアセスメントに関する根幹的な思想が欠落しておりノウハウやスキルについての解説や紹介が多い。

本書は、“ 著者の覚え書き ” の箇所で述べているように**「参考書としてではなく小説のように読んでほしい。つまり、頭から読み始めておわりまで読んでほしい」**ことを読者に要望し、リスクアセスメントの思想について説いている。第 1 章は、災害や事故の原因に関するいろいろな見方として、ヒューマンエラーとシステムや文化の欠陥についての例示である。また、事故の因果関係についての理解（事故分析をただ一つの見方しかしないことの指摘）の考え方を示している。第 2 章は、多くの事故には重なりあった多くの原因があり、ハードウェアの故障やヒューマンエラーは、目に見えない問題の最後の “ 症状 ” であることを解説している。第 3 章では、“ リスク－工学 ”“ リスク－人間 ”“ リスクとシステムおよび文化 ” の三つの視点について、リスクをどう定量化しているかを示している。第 4 章は、リスクの推定値を意思決定に利用する際の注意と、リスクアセスメントでは人間の問題を最大限まで考える必要性が説かれている。

本書は、やや専門的な内容であるが、著者は英国保健安全省で 20 年以上の経験のあるリスクアセスメント研究者である。意識高揚策だけにたよったヒューマンエラー防止策から脱却したい読者にお薦めの内容である。